

児童の適応行動を増やすための チームで取り組む支援の在り方

島根県教育センター 浜田教育センター
特別支援教育 長期研修員 岡野綾美
所属 島根県立浜田養護学校

1 課題と目的

2 研修計画

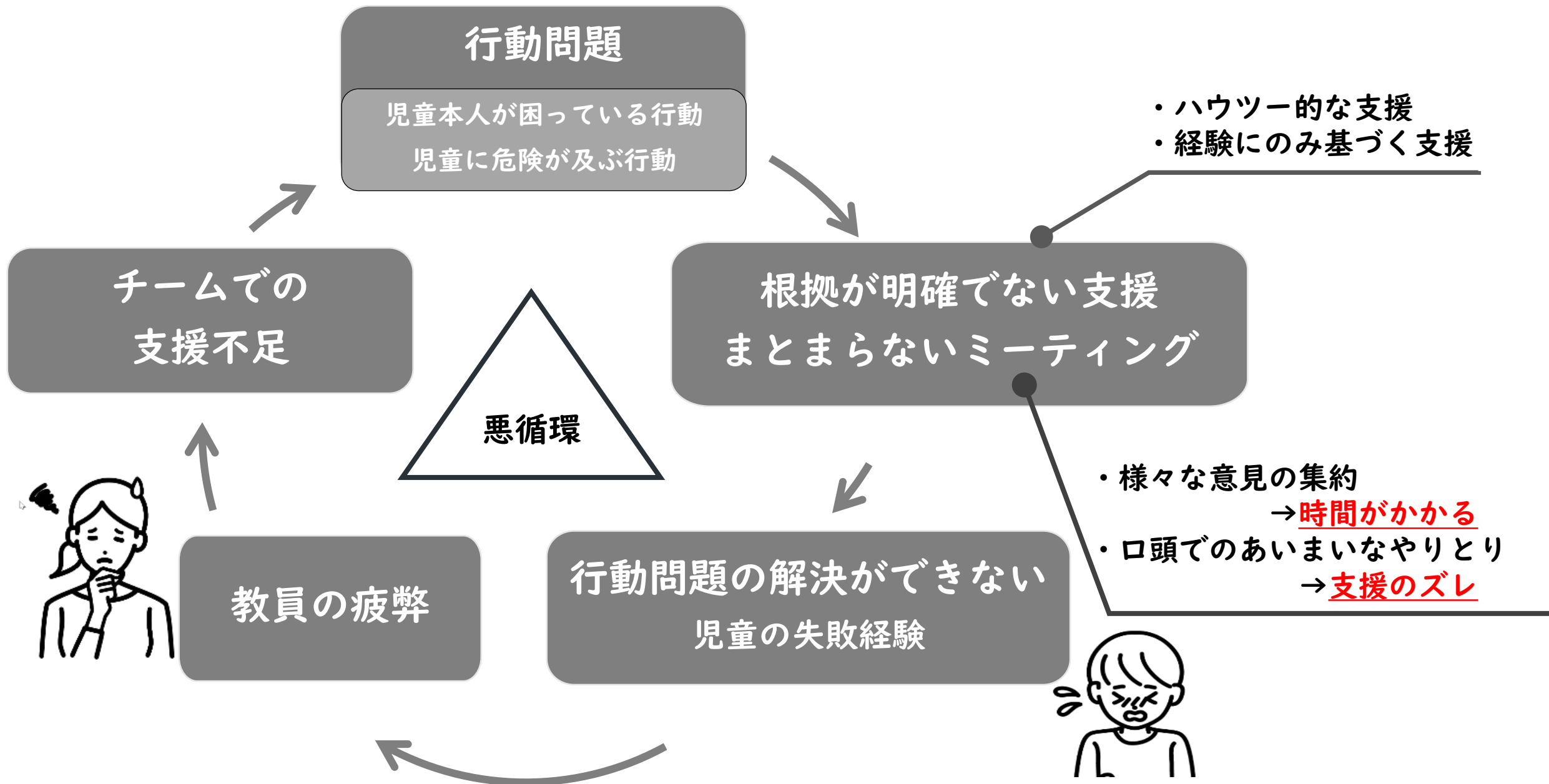
3 実践

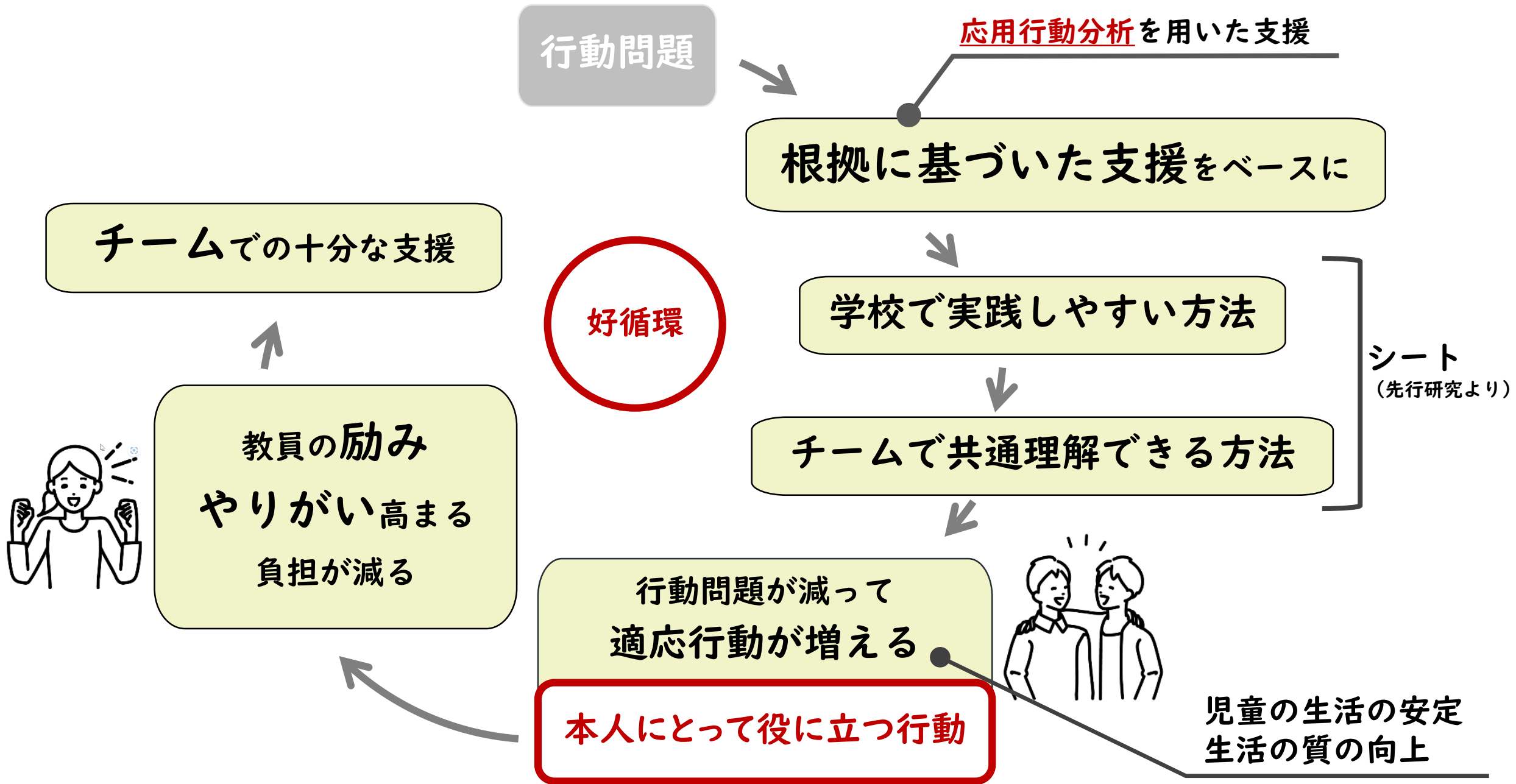
4 チーム支援

5 まとめ

1 課題と目的

特別支援学校で感じた課題





応用行動分析 を用いて

行動問題に対する実践等を通して

適応行動を増やすための

学校現場で実践しやすい

チームで支援を行うための方法 を考察する

応用行動分析

ABC分析

Antecedent

きっかけ



おかし売り場

Behavior

行動



大泣きする

Consequence

結果



おかしを買ってもらえた

行動の変容を考える際に、周囲の環境である「きっかけ」と「結果」を変えることに注目

その行動の起こりやすさは「きっかけ」で、増えるか減るかは「行動の結果」で決まる

2 研修計画

各種シートの説明

①応用行動分析を学ぶ

②有効な記録シート作成

行動記録シート

ABC分析



実践をしながら修正を加える

③協力校での実践
行動問題への支援

ABC分析

ストラテジーシート

【実践Ⅰ】

小学部A児
4月～12月

【実践Ⅱ】

小学部B児
8月～12月



④専門家への相談

島根大学 山口穂菜美助教

⑤他校の取組の視察

鳥取県立米子養護学校（9月に訪問）

⑥児童の変容の評価

行動問題の生起回数の記録

⑦チームでの支援方法の評価

教員へアンケート・インタビュー

⑧チームでの支援方法

学校で行う手順表

①～⑦を考察する

行動問題に代わる望ましい行動を増やす支援を考えることができるシート

ストラテジーシート 井上雅彦（2015）を参考に一部改変

R. . 作成

1 【標的行動】

A：事前

いつ、どこで、誰と、何をしているとき？
生じない時があれば赤字で記入

2

B：行動

具体的に記入

1

C：事後

要求 注目 阻止回避 感覚強化
その他

3

事前OR工夫

起こらなくてすむために
望ましい行動が起こるために

5

望ましい行動

指示に従うスキル
コミュニケーションスキル
余暇スキル その他

4

強化OR手立て

誉め言葉 ご褒美 好きな活動
トークンシステム その他

6

9

8

起こってしまったときOR対応

成功に導く手立て クールダウンOR手立て

7

それでも困った行動
が生じた場合

支援の振り返り
予定日

/

/

/

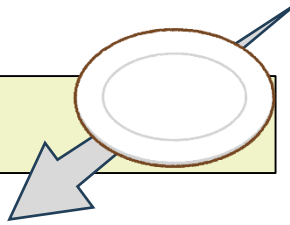
3 実践

行動問題への支援

【対象児童】 特別支援学校（知的障がい）の
小学部低学年（当該学級6名在籍の内の） 男子1名

【注目した行動】 給食時間に、食器等を投げる

保護者の思いも参考に選定



【指導期間】 2023年9月～12月までの4カ月間

【指導者】 主に私と児童の担任教員2名、学部付き教員1名の計4名で記録と支援を実施

【いつでも気軽に見れる】

記入したシートを全員に配布。
教室にも保管。

ストラテジーシート ver 4

(2015 Masahiko INOUE)

私が記入

A：事前
いつ、どこで、誰と、何をしているとき？
生じない時があれば赤字で記入

2

B：行動
具体的に記入

1

C：事後
要求 注目 阻止回避 自動強化
その他

3

事前OR工夫

起こらなくすむために
望ましい行動が起こるために

5

望ましい行動

指示に従うスキル
コミュニケーションスキル
余暇スキル その他

4

強化OR手立て

誉め言葉 ご褒美 好きな活動
トークンシステム その他

6

私が記入

起こってしまったときOR対応

成功に導く手立て クールダウンOR手立て

7

それでも困った行動
が生じた場合

【全員で】

- ・たくさん挙げる。
- ・実行するものを教員が一人一つ選んで全員で実行する。

井上（2015）を参考に一部改変

きっかけ	行動	結果		
<p>A：事前 いつ、どこで、誰と、何をしているとき？ 生じない時があれば赤字で記入</p> <p>・皿に何もなくなって、机に置くとき</p>	<p>B：行動 具体的に記入</p> <p>食器等を投げる</p>	<p>C：事後 <input checked="" type="checkbox"/>要求 <input checked="" type="checkbox"/>注目 <input type="checkbox"/>阻止回避 <input type="checkbox"/>自動強化 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>・食べたいものを質問される ・次のおかずが出てくる</p>		
<p>事前OR工夫 <input checked="" type="checkbox"/>起こらなくてすむために <input checked="" type="checkbox"/>望ましい行動が起こるために</p> <p>提供する量を少し増やす (写真を撮って全員で共有) ・要求できた時に褒める=拍手+「おお」「すごいね」「できたね」 (褒めてから、お替わり) ・「皿を置いた」時に顔を見て褒める=拍手+「おお」「すごいね」「できたね」 ・かき込まないように、食べにくいものは箸かスプーンか選択してもらう ・家での食べ方について連絡帳で保護者に質問。 ・放デイで食べる機会があるかどうか質問する。</p>	<p>望ましい行動 <input type="checkbox"/>指示に従うスキル <input checked="" type="checkbox"/>コミュニケーションスキル <input type="checkbox"/>余暇スキル <input type="checkbox"/>その他</p> <p>ジェスチャーで「食べたいもの」や「手伝って」を伝える</p> <p>それでも困った行動が生じた場合</p>	<p>強化OR手立て <input checked="" type="checkbox"/>誉め言葉 <input type="checkbox"/>ご褒美 <input type="checkbox"/>好きな活動 <input type="checkbox"/>トークンシステム <input type="checkbox"/>その他</p> <p>顔を見て拍手+「おお」「すごいね」「できたね」と伝える</p> <p>起こってしまったときOR対応 <input checked="" type="checkbox"/>成功に導く手立て <input type="checkbox"/>クールダウンOR手立て</p> <p>・給食から一時的に離れるように椅子を後ろへ移動 ・30秒後に皿を拾って、ジェスチャーの見本をして要求できるように促す</p>		
	支援の振り返り 予定日	10/23	/	/

共通理解

具体的な行動で記入

【目に見える行動】
例
「～する」○
「～しない」×

Antecedent

Behavior

Consequence

きっかけ

行動

結果

支援前

行動問題

食器等を投げる

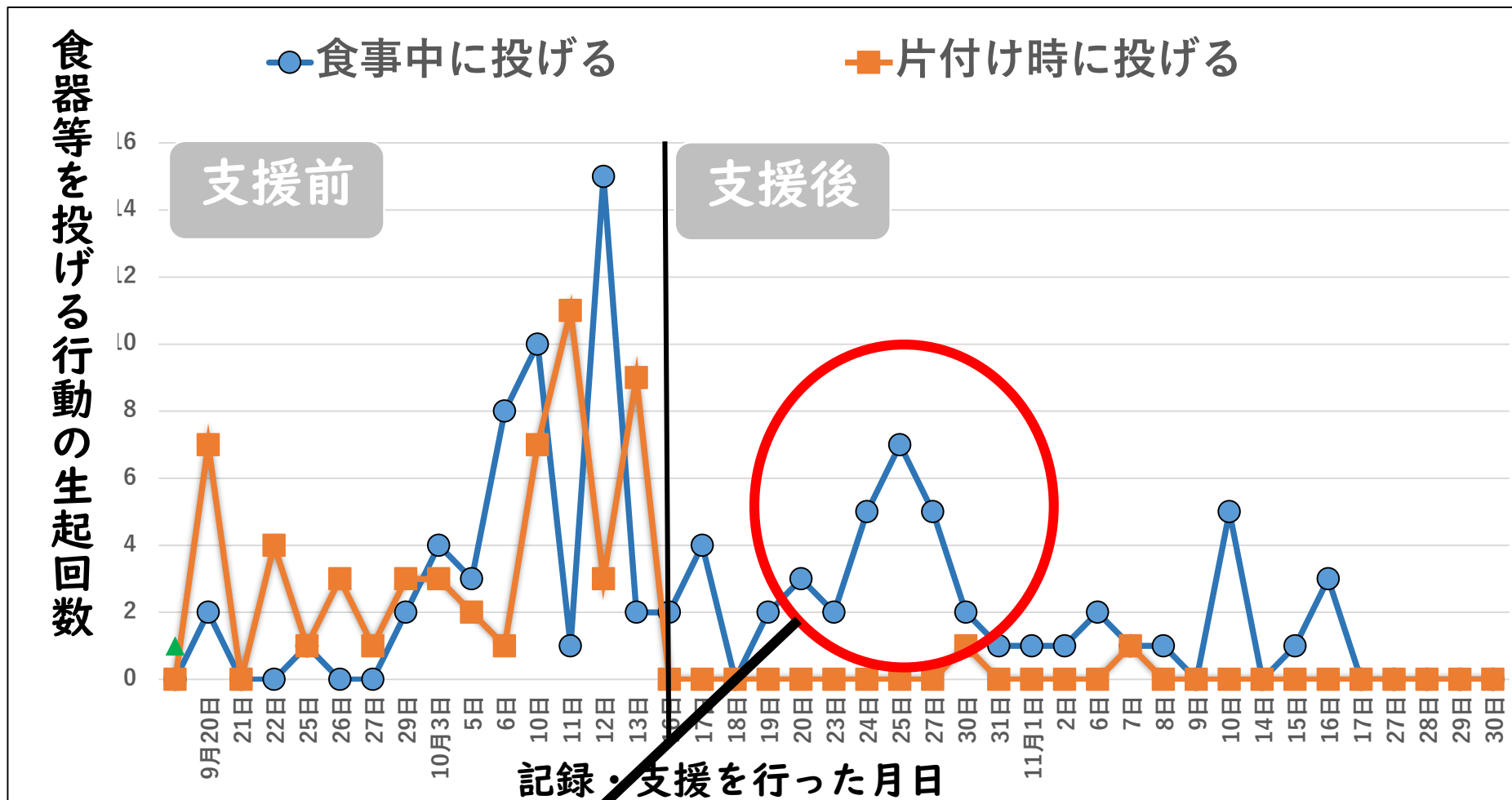
支援後①後

望ましい行動

要求する回数を減らす

ジェスチャーで
おかずを要求する

食べたいおかずを渡す
褒める



支援後に行動問題の「数」と「強度」が増した



難しかったこと



教員が行動問題を減らすことに注目

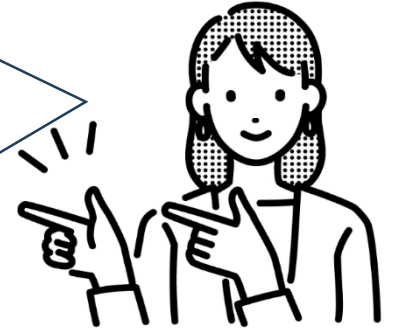


教員の不安と緊張感が高まった



今後の支援について様々な意見がでた

- ① 「※消去バースト」の可能性があるため、記録を基に支援の継続
- ② 適応行動を増やす視点について確認



専門家

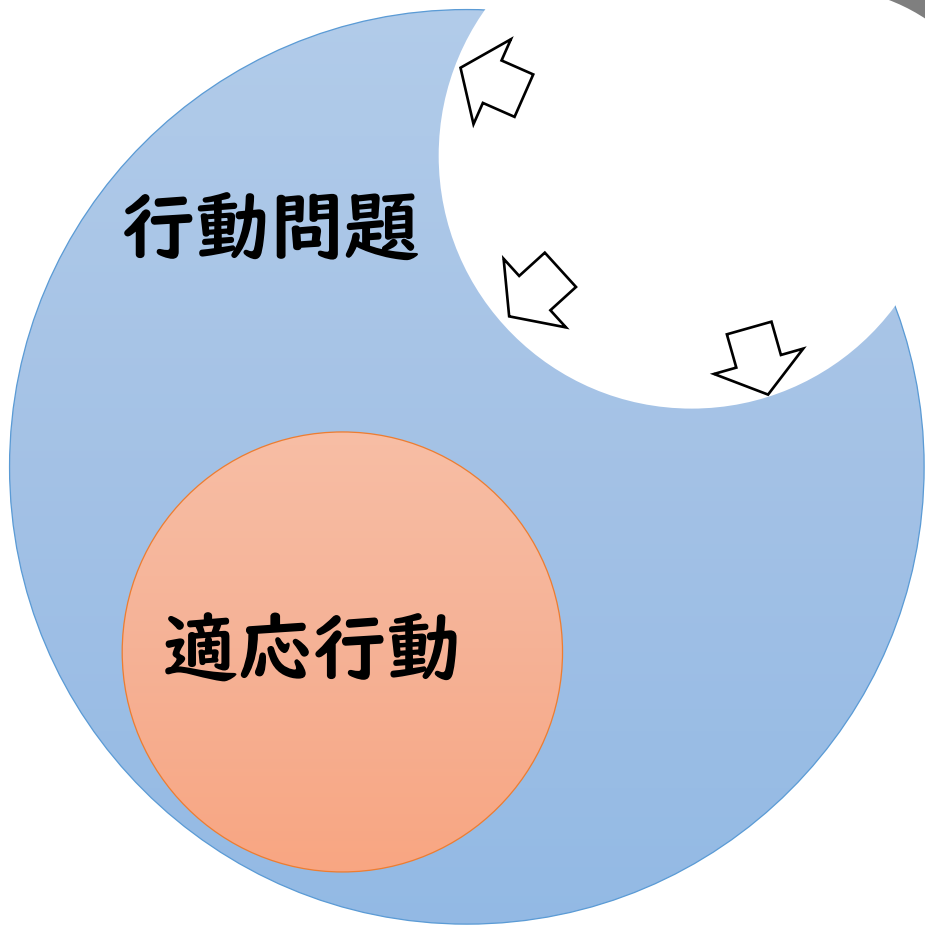
島根大学山口穂菜美助教



助言をヒントに再度シートを用いて支援の見直しをする中で、
チーム支援の立て直しができた

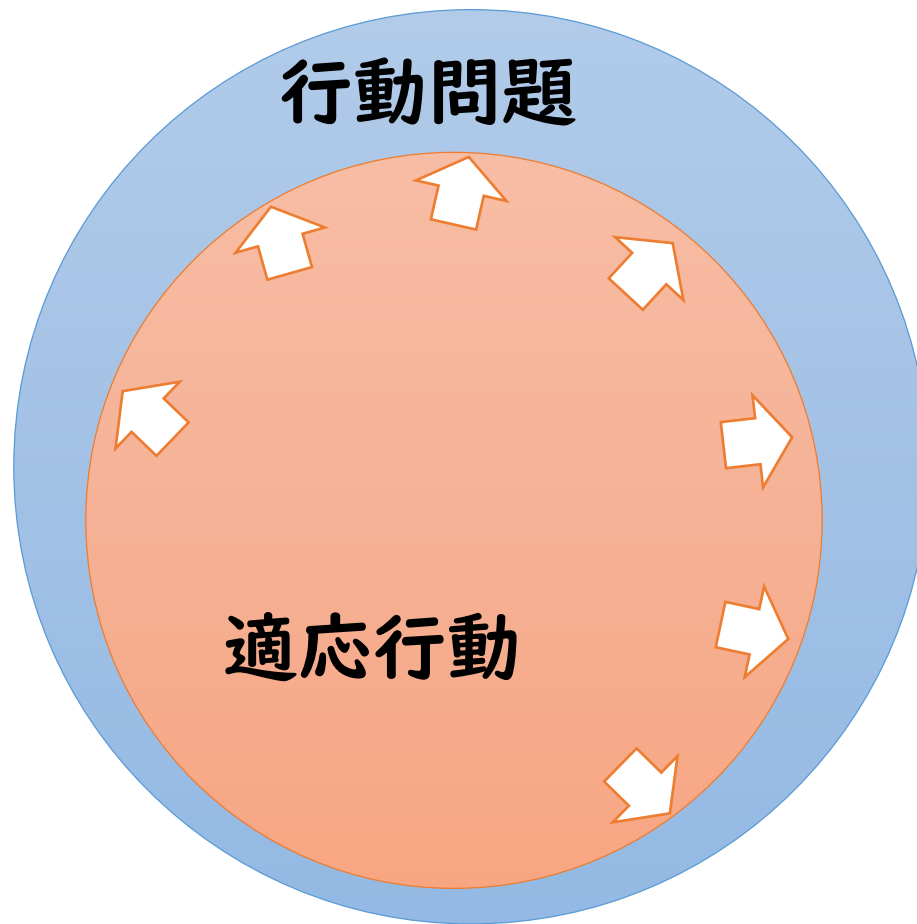


※これまで得ていた本人にとってメリットのあることが、得られなくなったことで、一時的に行動の頻度や強度が高くなる現象のこと



行動問題を減らす

*行動問題を減らしても新たな行動問題が出てくる可能性がある



適応行動を増やす

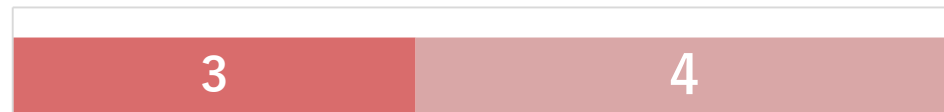
*適応行動が増えると、相対的に行動問題は減る

4 チーム支援

教員アンケートから振り返る

■ とてもあてはまる
 ■ あてはまる
 ■ あてはまらない
 ■ 全くあてはまらない
 ■ 無回答

児童の変容がわかりやすかった



過去の経験と比較してチームで支援を具体的に共有することができた



支援や環境を変えて実施することに負担感はない



行動をきっかけと結果にわけて分析したことで行動の「意味」を理解できた



過去の経験と比較してストラテジーシートを用いたことで

チームで支援や指導が考えやすい



ABC行動記録シートは記入しやすい



ABC行動記録シート用いて記録することの負担感はない



- ・具体的な行動に着目することで支援を**共有**しやすかった
- ・ストラテジーシートによって、教員の視点を揃えることができ、
話し合いが効率化された
- ・児童の行動を記録することで**変容**がわかりやすかった
- ・児童の変容によって教員の**実践意欲が高まった**

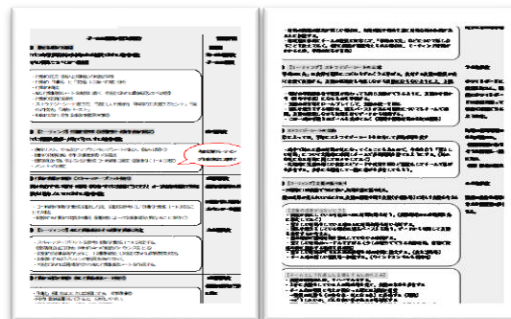


- ・**定期的な打ち合わせ**ができなかった
- ・直前の**打合せの設定**が難しかった
- ・実施する**支援が複数**あったり**複雑**だったり
すると気を遣うので**負担感**があった
- ・ABC行動記録シートの記入を
放課後にしていたため、**負担感**があった

チームの教員が行う手続き	留意事項
<p>① 【教員研修の実施】</p> <p>すでに応用行動分析の知識がある教員であれば省略可能。 以下の項目について PP で説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動の見方（個人と環境との相互作用）。 ・行動の「理解」と「支援」に活かす ABC 分析。 ・行動の機能。 ・ABC 行動観察シートを実際に書く（可能であれば動画を見ながら演習）。 ・行動の定義の説明。 ・ストラテジーシート書き方「望ましい行動例」「事前の工夫書き方ヒント」「強化の技法」「消去バースト」。 ・取組の流れ（特に記録の種類や時期）。 	<p>【研修】</p> <p>30～60 分程度 チームの教員</p>
<p>② 【ミーティング】情報の整理（実態把握・標的行動の選定）</p> <p>すでに情報を整理・共有できていれば省略可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇リスト、やる気アップランキングシートの記入（強みと関心）。 ・個別の指導計画（特に短期目標）の確認。 ・優先順位が高い気になる行動を 3 つ程度に選定（最終的に 1 つに決定）。 ・メンバーの決定。 	<p>60 分程度</p> <p>毎回次のミーティング日を決定して終了</p>
<p>③ 行動の頻度の観察（スキャッタープロット使用）</p> <p>行動が起きやすい場所・時間・状況がすでに把握できており、かつ支援の前後で生起頻度を比較しないのであれば省略可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 つ程度の標的行動を記録した後、記録を参考にして標的行動を 1 つに絞ることも可能 ・観察する行動の定義を確認（観察者によって記録回数異なることを防ぐ） 	<p>1 週間程度</p> <p>傾向が掴めれば OK</p> <p>回数が多い場合はカウンターを使用</p>
<p>④ 【ミーティング】ABC 行動記録をする標的行動を決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキャッタープロットを参考に標的行動を 1 つに決定する（優先順位は三田地・岡村の 4 つの観点のバランスをとる）。 ・記録の負担軽減のために、1 週間程度とし可能であれば時間帯を絞る。 ・記録をするポジションの教員を決めておく。 ・可能であれば選択肢付きの ABC 行動記録シートを作成する。 	<p>30 分程度</p>
<p>⑤ 行動の前後の観察（ABC 行動記録シート使用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「機能」欄に悩むときは空欄にする（時間短縮）。 ・同時に動画撮影もできると、分析しやすい。 ・機能の推定が難しい場合、行動動機診断スケール（MAS）の実施。 	<p>1 週間程度</p> <p>機能が推定できれば OK</p>
<p>⑥ 行動の分析・支援の策案作成（ストラテジーシート使用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動の機能の推定が難しい場合は、記録用紙や動画を基に行動分析の知識がある人に相談する ・作成後は事前にチームの教員に配布して、「事前の工夫」などについて話し合うことを伝えておく（特に機能が複数考えられる場合は、ミーティング時間がかかるため、事前の配布が有効）。 	<p>主担当が 1 人で作成する方が効率的</p>

<p>⑦ 【ミーティング】ストラテジーシートの立案</p> <p>「事前の工夫」は実現可能性にこだわらずたくさん挙げる。実行する支援は教員が決めて全員で実施する。支援の難易度も考慮しながら負担にならないように 2, 3 個。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の準備担当者や教員が代わっても同じ支援ができるように、支援の手掛かり（目印や写真）になるものを準備する。 ・支援の仕方等をロールプレイして、支援の統一を図る。 ・消去手続きをする場合は、消去バーストがある可能性についてもチームで確認。支援は継続しながら記録を行いデータから判断する。 ・この一連の手続きのゴールを決めておく（期間や標的行動の生起回数等）。 	<p>70 分程度</p> <p>ホワイトボードに意見を記入し、最後にホワイトボードの写真を撮って各自で確認できるよう配布</p>
<p>⑧ ストラテジーシートの実施</p> <p>場合によっては、学部にストラテジーシートを配布して共通理解を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で新たに他の行動が気になってくることもあるので、今向き合う「望ましい行動」について定期的に確認し、チームで共通認識を持てるようにする（新たな気になる行動に関してはメモしておく）。 ・定期的に児童の嬉しい変容エピソードや成果を図など視覚化してチームで喜びを共有する。主事にも報告して一緒に喜びを共有してもらう。 	<p>記録は行動問題の生起回数のみ。</p> <p>（因果関係がありそうな情報も一緒に記入 （例）給食の献立</p>
<p>⑨ 【ミーティング】支援の振り返り</p> <p>1～2 週間に 1 回実施できると良い。記録を基に振り返る。</p> <p>支援の成果が見られている際は、支援の継続や残す支援（手順表等）と減らす支援を考える。</p> <p>【支援の成果が出ないとき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能が変化している可能性→ABC 行動記録を行う（負担軽減のため期間を先に限定しておく）。 ・望ましい行動をしている時の ABC 行動記録も行い分析する。 ・消去手続きをしている場合は消去バーストを疑う。データから判断して支援を変更するか考える。 ・他の場面で標的行動を強化していないか確認する。 ・望ましい行動のハードルを下げる（少しの努力でできる代替行動。書籍で発達年齢に該当する項目を再確認）。 ・望ましい行動ができるための練習を別の時間に設定する（自立活動等）。 ・チーム外の詳しい教員等へ相談する（ウインドコンサルも利用可）。 <p>【チームとして共通した支援をするための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の確認のため、リハーサルをする。 ・上手に支援をしている人の動画等を見て、支援の方法を共有する。 ・チーム内の教員と考えが異なった際には対話が重要。 →教員の気持ち（不安な点・気になる点）に共感する（傾聴）。 →どうしたいか、どんな良い事があるか等対話する。 教員の納得解に至ることで、児童の対応にも気持ちの余裕や自信がでる。 	<p>60 分程度</p> <p>児童の変容や成果を本人や保護者と共有する</p>

手続き自体の負担の軽減



ミーティングの設定

- ・既存の会議の時間に設定
(学年会・学級会に設定)



記録

- ・記録期間の限定
- ・チームで記録を分担する
- ・生起数の記録は道具 (カウンターなど) やアプリを用いる



3ステップで

手続きのスリム化

- ① 適応行動の決定
- ② 適応行動が起こりやすいきっかけ作り
と起こった後の称賛・好きな活動ができる環境作り
- ③ 適応行動が起こった回数のみを記録
して共有

Antecedent

きっかけ

【やることがわかる】

- ・支援が明確
- ・共通理解できる状況

- ・ ストラテジーシートの作成と検討
- ・ 具体的な行動で記入
- ・ 支援のリハーサル・確認

Behavior

行動

チームで支援する



増える

モチベーションを高める

Consequence

結果

やって良かった
という経験

- ・ 承認・称讃
- ・ 記録のグラフ化
- ・ ミーティングでの
児童の変容の共有

5 まとめ

今後に向けて



子どもの変容

- ・「行動」に着目する特徴からチーム支援に有効



支援の構造化

- ・根拠に基づいた支援
- ・支援の視点が明確
- ・人に説明がしやすい



今後の取組



広がり

- ・実践を積み重ねること同じ知識を持った仲間を増やすこと
- ・チームでの支援もより効果的

ご清聴ありがとうございました